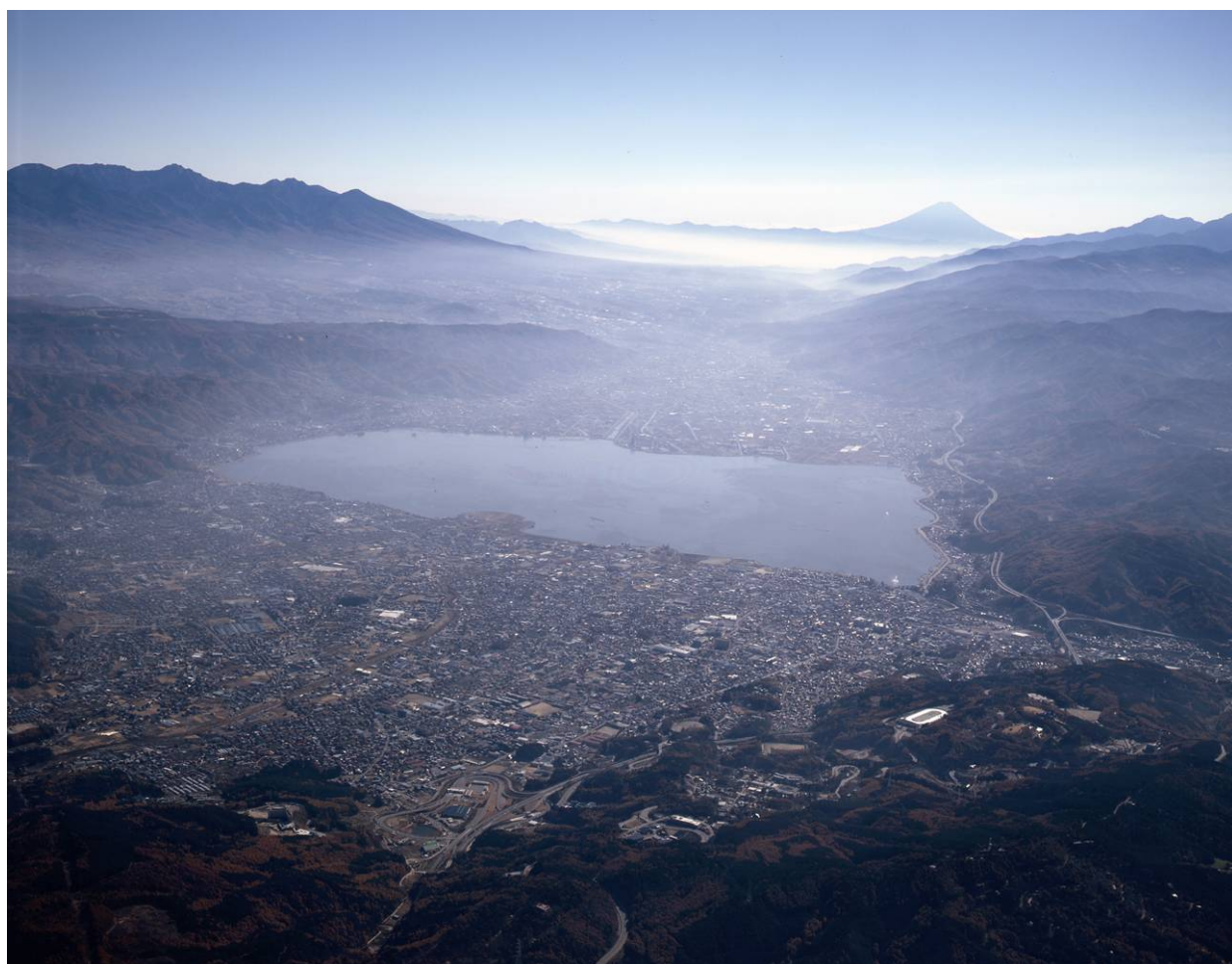


平成19年度
～市民総参加のまちづくりサロン～

提言書



平成19年12月

はじめに

市民総参加のまちづくりサロンは、平成18年度からスタートした自由参加型の市民会議です。今年度は4月から11月まで、①健康・福祉・子育てなど、②環境・ごみ・景観など、③街の賑わい、活性化など、の3グループに分かれて計8回の話し合いを行ってきました。参加者は一般市民であり、このサロンは諮問や答申を行う審議会のような機関とは違いますが、私たちは、このような一般市民からの視点も大切であると考えています。サロンという名前からわかるように、気軽な集まりではありますが、まちづくりに関して熱い議論を重ねてきました。話し合いを行うごとにテーマへの理解が深まり、参加者自身の知識も増えたことは、提言書の作成とともに大きな収穫だったといえるでしょう。

参加者はそれぞれ市の将来を考え、できる限り具体的に、また建設的な話し合いを目指してきました。この提言書は、その話し合いで出た意見をまとめたものです。ページは限られているため、全ての意見を掲載することは出来ません。しかし、グループ全体でまとめた意見はもちろん、少数意見もできるだけ掲載することとしました。これは、検討の過程ではいろんな意見が出されることが当然であり、少数意見も一つの考え方として尊重した方がいいと考えたためです。また、グループごとにテーマを掘り下げた程度が違うこともありますが、このサロンとしては精一杯の話し合いを行ったと考えています。

今回は私たち参加者の想いを提言書としてまとめ、提出します。この提言が、今後の岡谷市のまちづくりに活かされることを期待しています。



平成19年度市民総参加のまちづくりサロン 参加者一同

目次

提言

1. 健康・福祉・子育てなど…………… 1～2
 - 提言1 病院統合
 - 提言2 子育て
 - 提言3 地域での子育て支援
 - 提言4 学校について（学校統合・通学区・みまもり隊）
 - 提言5 市政について

2. 環境・ごみ・景観など…………… 3～4
 - 提言1 清掃工場の建設
 - 提言2 ごみの有料化
 - 提言3 ごみ減量の取り組み
 - 提言4 環境問題
 - 提言5 市内の景観

3. 街の賑わい、活性化など…………… 5～7
 - 提言1 まちの賑わい
 - 提言2 憩いの場・サロンについて
 - 提言3 食を活用したまちづくり
 - 提言4 ララオカヤの活用
 - 提言5 中央通りの商業
 - 提言6 マンション

検討の経過

- 第1回～第8回までの経過…………… 8～9

提言の項目

1. 病院統合
2. 子育て
3. 地域での子育て支援
4. 学校について（学校統合・通学区・みまもり隊）
5. 市政について

1 病院統合について

市内には2つの病院があり、平成18年度に経営統合を果たしています。将来は施設自体も統合される予定であり、市民の求める病院、市民のためになる病院の姿という視点で話し合いを進めました。

提言

- ・統合により、市民が求める病院になることが大切であり、そのためには市民が積極的に意見を出し、その意見を活かす機会が必要となるでしょう。そこで、統合のための病院運営委員会のような組織があるのなら、一般市民も委員のメンバーにした方が良いと考えます。
- ・強みのある診療科目だけではなく、予防医療や子育てなど福祉全般を考えた病院経営を行い、市民のためになる体制を築くことが必要と考えます。
- ・市民の関心を高めるため、アンケート調査を行うのはどうでしょうか。このサロンの参加者でも、病院統合、病診連携、診療科目の統合を知らない人がいます。
- ・看護師や医師確保のため、岡谷市出身の医学部学生に奨学金を出すのはどうでしょうか。将来の看護師、医師確保のために有効と考えます。

2 子育てについて

カルチャーセンターには「子育て支援センター」が設置され、多くの利用者を集めています。そんな施設を中心とした子育てという視点で話し合いを進めました。

提言

- ・カルチャーセンターの4階全てを、「こどものくに」とし、現在は3歳までの制限を保育園児までとすれば、縦の繋がりが実現できると考えます。
- ・ラオカヤの空きスペースを活用し、託児施設や子育ての情報を発信するプラットホーム的役割をもった施設としたらどうでしょうか。駅周辺の活性化にも繋がると考えます。

3 地域での子育て支援

市内には、地域で子育てに取り組む地区があります。これからの子育ては、地域の住民が大きな役割を果たす必要があり、団塊世代の対策にもなると思われれます。そんな視点で話し合いを進めました。

提言

- ・あやめ基地、西堀ラムラム広場のような場所を他の地区にも広げるのはどうでしょうか。団塊世代の人の助けを借りれば、地域で運営することもじゅうぶん可能と考えます。
- ・少子化により、今の子どもたちは世代間交流の機会が少ないと思われれます。地域で子どもたち同士が触れ合う機会、場所を作ることが必要と考えます。

4 学校について（学校統合・通学区・みまもり隊）

国の人口が減少する時代であり、子どもたちの人数も減少しています。市の財政が厳しい状況であり、学校のあり方も、そんな背景を考慮する必要があるのでは、という視点で話し合いを進めました。

提言

- ・学校の統廃合や通学区の見直しは、子どものことを中心と考え、短期間ではなく、数年の期間をかけ、市民理解を得ながら進める必要があります。
- ・将来的な人口の増減を考え、学校を配置することが必要と考えます。また、空き校舎は老人ホームに転用するなど、活用を図ることが必要ではないでしょうか。
- ・子どものお手本となるべき親のサポートは行っているのでしょうか。交通指導をしている親などを見ていると、子どもに正しい指導をしていない場合もあるようです。
- ・通学途中の「みまもり隊」で子どもたちを見っていますが、以前よりあいさつがあります。このような活動は、続けることが重要であり、徐々に浸透すると考えます。

5 市政について

市政の情報は、広報おかやや市政懇談会で知る事ができますが、内容が難しく、どれだけの市民が理解しているかは疑問です。より多くの市民が市政に関心を持つためにはどうしたらいいか。そんな視点で話し合いを進めました。

提言

- ・広報おかやの編集は素晴らしいが、どれだけの人が読んでいるのでしょうか。毎回一口メモのように、もっと分かりやすく情報を提供することが必要であると考えます。
- ・病院統合に限らず、市政全般について市民に対し情報公開が必要ではないでしょうか。
- ・市政懇談会も、説明は工夫されていますが、もっと市民が気軽に参加でき、自由な発言をしやすい雰囲気が必要と考えます。また、目的・問題別に課題を絞った懇談会を開催することにより、充実した内容の濃い懇談になるのではないのでしょうか。自分のまちに興味をもてる懇談会にしてほしいと考えます。

検討の過程で出た意見（抜粋）

○病院統合

- ・病診連携の一つとして、入院した病院とリハビリの病院は分けて考えたらどうか。
- ・検診を受け病気が見つければ、治療費も安くなるので、予防医療の啓発は大切。
- ・これからの病院は、介護施設を併設するなど、複合的な経営が必要かもしれない。

○子育て

- ・あやめ基地のような活動の立ち上げを、市で行うことはできないか。
- ・ミニ公園が地域にあるといい。
- ・休耕地や学校など、地区の実情にあった場所を提供してもらいたい。
- ・ある保育園では2歳で入園した子どもが優先され、3歳の人数枠が少ない所がある。

○高齢者生きがいデイサービス事業

- ・地区の社協で行っている「いきいき」の具体的効果は出せるのでしょうか。市の予算を使っている事業であり、そのような検証も必要ではないのでしょうか。

提言の項目

1. 清掃工場の建設
2. ごみの有料化
3. ごみ減量の取り組み
4. 環境問題
5. 市内の景観

1～3 ごみ問題について

建設計画がある清掃工場についての話し合いから始まりました。現在の焼却施設は建設から20年以上が経過したため、諏訪市、下諏訪町と共同で、新しい施設の建設計画を進めています。基本的には、ごみの焼却はいろんな面で環境への負荷が大きく、それを考えたら、まず出さない方法を考えるのが重要という視点で話し合いを進めました。

提言 清掃工場の建設

- ・清掃工場の建設は必要ですが、ごみ減量の努力も必要です。建設の前にごみを減らすシステムを考える必要があると思います。
- ・新しい施設の情報をもっと市民に知らせてほしいと思います。情報を流すことで、市民が考えるきっかけを作ることができ、関心が高まると考えられます。
- ・新しい施設を計画・建設するのは、ごみを減量した後がいいと考えます。それまでは今の施設を使い続けるのがいいのではないのでしょうか。

提言 ごみの有料化

- ・現在はごみ減量のメリットが無いため、多くの市民は関心が低いと思われます。ごみが増えれば結局は自分の負担が増えることとなります。自分のこととして考えてもらうには、量に応じた個人負担の検討が必要と考えます。
- ・有料化には慎重意見もあり、段階を踏んで進める必要があるかもしれません。例えば収集回数を減らしたり、市民に一人あたりの負担額を示すことはどうでしょう。
- ・現在は関心が低く市民が考える機会もありません。減量と有料化のアンケートを行うことや、タウンミーティングのような機会が必要と考えます。

提言 ごみ減量の取り組み

- ・みんながわくわくするような大きな目標を立て、取り組むことがいいと考えます。「ごみの出る量が日本で一番少ないまち」を目指すことはどうでしょう。
- ・市民意識を高めないと、ごみは減らないと思います。そのためにも、今までの生活スタイルを考え直すような方法や、出来ることから始めることが必要だと考えます。
- ・ごみのリサイクルを今以上に進める必要があります。プラスチックの分別回収や、生ごみリサイクルを今以上に普及させるなどの取り組みが必要と考えます。
- ・市民、行政、企業、広域で、それぞれが出来ることを考え、取り組んでみたらどうでしょう。

4 環境問題について

岡谷市は諏訪湖に面し、天竜川の始まる水源のまちです。諏訪湖周辺の水辺を整備し、水への関心を高めることで、水質を浄化できるのではないかという視点と、上流に位置するまちとして、天竜川を浄化する必要があるという視点で話し合いを進めました。

提言

- ・下水道には汚れた水を流してもいいという感覚です。水源のまちとして、天竜川の下流の環

境を考える取り組みが必要と考えます。

- ・天竜川沿いは外来植物の「アレチウリ」が繁殖しています。駆除には市民の力が必要であり、その方法を考える必要があります。
- ・子どもたちに「アレチウリ」を見てもらい、環境について学習してもらうのはどうでしょう。
- ・浄化の目標を作ることが大切だと思います。「トンボの飛ぶ湖」「泳げる諏訪湖の実現」などの目標を掲げ、取り組んでみるのはどうでしょうか。
- ・諏訪湖全体を考え、流入する河川を持つ市町村が集まり、共同で浄化推進の取り組みを行うことも有効な方法と考えます。

5 市内の景観について

市内には景色の美しい場所がたくさんあります。小坂観音や塩嶺峠から眺める諏訪湖や横河川沿いの桜、川岸地区の新緑など、いずれも未来に残したい景色です。このためには市内全体を眺め、美しい景観を残す取り組みが必要という視点で話し合いを進めました。

提言

- ・市内の景観100選のようなものを決め、身近な景観、水源、樹木などを保護する必要があると考えます。まちづくりは、景観を考えながら進めることも大切ではないでしょうか。
- ・景観保護のためには景観条例が必要だと思います。土地所有者の理解は必要ですが、ある程度の規制も必要と考えます。
- ・保存のために、何をすればいいのか考える必要があります。また市民の関心を高めるためのPR活動も重要と考えます。

検討の過程で出た意見（抜粋）

○ごみ問題について

- ・ごみの堆肥化は、その後の使い道が決まっていることが必要ではないか。
- ・ごみになる物を買わないことが大切。市民の努力も必要。
- ・衛生自治会の役割や、収集のシステムそのものを変える必要がある。
- ・鮎沢地区のように、ごみ減量のモデル地区を増やすことは可能か。
- ・市民サイドからの提案で、市民からアイデアを公募することはどうか。
- ・子ども達の宿題で、家庭のごみチェックを行うと、いいアイデアが出るかもしれない。
- ・ごみ減量を活動のメインとした組織を作って取り組む方法はどうか。
- ・大型の生ごみ処理機を地区に設置する。
- ・市と市民一人当たりの減量目標を宣言する。

○環境について

- ・大きなアレチウリを駆除した人に景品を出す。
- ・散歩の途中でアレチウリを抜いてもらうような活動をしたい。
- ・天竜川をうなぎが遡上するような川にしたい。
- ・24時間営業の店舗は、エネルギーの無駄使いではないか。

○景観について

- ・景観は人によって感じ方が違うので、難しい面がある。
- ・マンションが立ち並ぶ景観は、美しいとはいえない。
- ・身近な景観を守ることから始めるのが大切。

まちの賑わい、活性化などのグループ

提言の項目

1. まちの賑わい
2. 憩いの場・サロンについて
3. 食を活用したまちづくり
4. ララオカヤの活用
5. 中央通りの商業
6. マンション

1 まちの賑わいについて

市内にはやまびこ公園や、毎年行われる太鼓祭りなど、まちの賑わいに繋がる資源が数多くあります。今ある資源を活かし、まちの活性化に繋げるという視点で話し合いを進めました。

提言

- ・太鼓祭りのようなイベントは、一時的な賑わいとなっています。この賑わいがまちに広がるような方法を考える必要があるのではないのでしょうか。
- ・新しいものを作るのではなく、市内の公園や自然環境など、今ある資源を活かしながら、魅力的なまちとするためのイメージを作って、まちの活性化に繋げることが必要と考えます。

2 憩いの場・サロンについて

空き店舗などを利用し、誰もが気軽に立ち寄ることができる場所を作ることで、人が集まり、交流の輪が広がる。それが周辺の活性化に繋がるという視点で話し合いを進めました。

提言

- ・空き店舗などを利用し、市民の方々（学生や一般の人、子どもや子育て中の母親など）が気軽に集まれる場所を設置できないのでしょうか。人が集まる場所があれば、その地域の活性化に繋がります。
- ・その場所には、子どもを1時間単位で託児できるようなシステムを作り、子育て支援を行うことはどうでしょうか。団塊の世代の力を借りれば、高齢者対策にもなると考えます。
- ・現在の子どものくにも、1時間単位で託児ができるシステムを導入できないのでしょうか。子育て支援とともに、まちに人が集まり、お客さんが増えれば、商業界への経済効果に繋がります。

3 食を活用したまちづくり

うなぎ、みそ、酒、横河の名水など、岡谷には地域の特色のある資源があります。今あるこれらをさらに発展させるようなアイデアを考え、活性化に繋げるという視点で話し合いを進めました。

提言

- ・うなぎやみそ、横河の名水など、岡谷の特色となる食材を活かすため、メディアや雑誌などを活用し、PRやイベントを行い、活性化につなげることが必要と考えます。
- ・今ある食文化を活かすことを検討する必要があると思います。例えば、うなぎの骨酒、シルクシュウマイ、みそアイスなど、ちょっとしたアイデアを使ったまちづくりが必要と考えます。
- ・食べ物、まちの賑わいにとって大切な要素です。今のところ決定打のような名物がないので、インパクトのあることが必要と考えます。

4 ララオカヤの活用

現在のララオカヤは有効活用されているとはいえず、駅前のメリットを活かせていません。この建物を有効に使うにはどんな方法があり、どんな効果が望めるのか。そんな視点で話し合いを進めました。

提言

- ・ララオカヤは様々な活用方法の検討を行い、今の建物でも、再整備で新しい建物を作っても、市民が集まって楽しめる場所となれば良いと考えます。
- ・カルチャーセンターが飽和状態で利用しにくくなっています。利用者が諏訪湖ハイツに流れているので、市街地の活性化を考え、ララオカヤを活用することの検討が必要と考えます。
- ・市民が活用方法を提案する機会がありません。いろんな使い方があるでしょうから、市民が考える機会があっても良いと考えます。

5 中央通りの商業

空き店舗が増え、商店街としての活気が薄れてしまった中央通りですが、人を呼び戻すには何が必要で、何をしたらいいのか。そんな視点で話し合いを進めました。

提言（ソフト面）

- ・商業者同士の繋がりや、お客との意見交換の場を創出し、市民も一緒になって応援できるような組織を作り、商店街を盛り上げていくことが必要と考えます。
- ・お客さんが何を求めているか、商業者が知る機会を作ることが必要ではないでしょうか。また、商業者自身の努力も必要と考えます。

提言（ハード面）

- ・時代の変化に対応し、空き店舗の駐車場や住宅などへの転換も必要でしょう。街並みとして利用が活性化するような取り組みを図り、まち全体のイメージチェンジに繋がれば良いと考えます。
- ・店から店へ歩いてみたくなるような個性のあるまちづくりが必要と考えます。これからは、車を置いて歩くことをメインに考えたらどうでしょう。
- ・人を呼ぶためには、中央通りだけで用事が済むような、完結する商店街が必要です。また通り沿いに新しい駐車場を増やすような仕掛けが必要と考えます。

6 マンション

中心市街地に3棟のマンションが建設され、まちの賑わいに繋がることが期待されています。マンションが増えることが、今後のまちづくりにどう繋がっていくのかという視点で話し合いを進めました。

提言

- ・マンションが増え、中心市街地に住民が増えることは、まちの賑わいに繋がる可能性もっています。入居した方々をどのようにまちに誘導していくのか、また、今後のまちづくりと、どう繋がっていくのか、今後の検討テーマとしたらどうでしょうか。

検討の過程で出た意見（抜粋）

○まちのにぎわいについて

- ・太鼓祭りは市民のためのものか、観光客のためのものかわからない。経済効果も疑問。
- ・祭りの日程が悪く、お盆の時期である。地区のお祭りのことも考えてほしい。
- ・にぎわいを生むための、他のまちでの取り組みを参考にしたらどうか。
- ・岡谷には自分たちが気付いていない魅力があるかもしれない。

○憩いの場・サロンについて

- ・誰でも集まれる場所を作り、頻繁にイベントを行うのがいい。

○食を活用したまちづくり

- ・諏訪湖サービスエリアで売っているものを参考としたらどうか。
- ・市内に来た観光客を循環させることが必要である。

○ララオカヤの活用

- ・やまびこの健康づくりに関するものを、持ってくることはできないか。
- ・岡谷に来たら何か面白いことがある。そんな駅前になればいい。
- ・今のまま使えばいい。カルチャーの分室にしたらどうか。
- ・マンションではなく、他の使い方があってもいい。
- ・駅前再開発の計画を題材に議論したら面白いと思う。

○中央通りの商業

- ・ターゲットの年代を絞るような、イメージチェンジが必要。
- ・商業関係の横のつながりが不足している。
- ・商業者が集まり、商業者自身が取り組みを始めないとどうにもならない。
- ・市民にも中央通りのことを考えている人がいる。
- ・店舗の種類が増えたほうがいい。
- ・中央通りに想いのある人たちが集まり、共同でイベントを企画したらどうか。
- ・お客さんや店主の集まれる交流の場所は作れるか。
- ・映画館が中央町駐車場の料金分を割り引くなど、人の流れを作り出す工夫や努力が必要。

○マンション

- ・マンションが出来たが、人が増えた感じがしない。

市民総参加のまちづくりサロン開催経過

第1回

日時 平成19年4月24日 午後7時～8時30分

会場 テクノプラザおかや

参加人数 27人

内容 ①概要説明

②自己紹介

③意見交換

- ・会議の進め方
- ・話し合いのルール
- ・話し合いのテーマ
- ・意見・提言について



第2回

日時 平成19年5月25日 午後7時～8時30分

会場 生涯学習活動センター

参加人数 24人

内容 ①意見交換

- ・会議の進め方
- ・テーマを分けての話し合い



第3回

日時 平成19年6月27日 午後7時～8時30分

会場 イルファアミューズメントプラザ2階

参加人数 25人

内容 ①意見交換

- ・テーマを分けての話し合い



第4回

日時 平成19年7月30日 午後7時～8時30分

会場 生涯学習活動センター

参加人数 22人

内容 ①意見交換

- ・テーマを分けての話し合い



第5回

日時 平成19年8月30日 午後7時～8時30分

会場 生涯学習活動センター

参加人数 21人

内容 ①意見交換
・テーマを分けての話し合い



第6回

日時 平成19年9月25日 午後7時～8時30分

会場 生涯学習活動センター

参加人数 16人

内容 ①意見交換
・テーマを分けての話し合い
・提言に向けてのまとめ



第7回

日時 平成19年10月29日 午後7時～8時30分

会場 生涯学習活動センター

参加人数 14人

内容 ①意見交換
・テーマを分けての話し合い
・提言に向けてのまとめ



第8回

日時 平成19年11月27日 午後7時～8時30分

会場 生涯学習活動センター

参加人数 12人

内容 ・提言に向けてのまとめ
・提言の方法について

